

假觀、中觀)之二」と説明し、謝靈運の「石壁立招提精舍」詩にある「禪室栖空觀、講宇析妙理」の句を引く。

▼空觀月…ここでは「空觀という真理」と「空にかかった月を見る」という意味とをにかけている。

124 ○開敷…花が開くこと。

『漢語大詞典』では「(花雜)開放、繁榮」と説明する。

○妙法…深遠微妙なことわり。理法。こよなき真理。

妙なる法。義理の深遠な仏法。とくに「妙法蓮華經」をいう。

『法華經』の「方便品」に「如是妙法、云々、如優曇鉢華時一現耳」の一文が見える。

『菅家文章』「298 八月十五日夜、思舊有感」に「茗葉香湯免飲酒、蓮華妙法換吟詩」の句が見えるが、ここでの「妙法」は「妙法蓮華經」≡「法華經」の意味で使われている。

『漢語大詞典』では「①仏教語。指義理深奥的仏法」と説明する。

○蓮 …池や水田、堀などに栽培されるハス科の多年生水草で、仏典の花として、また食用としても日本人に

なじみ深い植物。日本には古く大陸から渡来したらしく、万葉集にハチスの名で出てくる。花は夏に

咲く。(平凡社、大百科辞典11巻、P 1095)

仏教においては、蓮華は泥中に生じてでもそれ自体は泥に汚されず清浄であるため、煩惱から解脱して涅槃の清浄の境地を目指す教えの趣旨に合致して、(中略)大乘仏典の各経典で、浄土・理想の仏国の情景を叙述する場合の必須の要素となっている。(中村元『岩波仏教語辞典』岩波書店)

125 ○誓弘…「弘誓」として、中村元著の『仏教語大辞典』には、「一切衆生を救おうとする菩薩の誓い。仏となる